

2004年資源評価に使用するデータに関する決定の変更を生じさせた協議記録

要旨

MPWS3のデータ交換作業部会において、2004年の資源評価には2001年の資源評価で使用したのと同じ歴史的データを使うことが合意された。しかし、閉会期間中の協議で、オペレーティング・モデルに使用したデータの一部が、2001年の資源評価で使用したものと異なることから、この決定には問題があることが判明した。このため、2004年の資源評価、ならびにオペレーティング・モデルの更新にどの歴史的データを使用するかについて、決定を変更することが合意された。日本の漁業については、1994年までのデータには「L5M」データを、1995年以降についてはCCSBTのデータを使用することが決定された。また、オペレーティング・モデルについては、以前合意された機械的な更新を行うことはあまり意味がないと決定された。その代わりとして、既存のオペレーティング・モデルの結果と比較するため、まずは2000年までの新しいデータを用いてオペレーティング・モデルを走らせ、その後、2003年までの完全な新しいデータを使用して、再度オペレーティング・モデルを走らせることが決定された。

草案原稿 2004年8月17日

**パネルの会議の報告**

於：シアトル、NOAA アラスカ漁業研究所、2004年7月20日-23日

パネル・メンバーのジム・イアネリ、ジョン・ポープ、レイ・ヒルボーン、アナ・パルマ、ならびにコンサルタントのヴィヴィアン・ハイストは、オペレーティング・モデル（レファレンス・セット）の機械的な更新の結果を検証し、より改良されたレファレンス・セットを得るための代替案を検討するため、2004年7月20日から23日まで、シアトルで会合を開いた。

**序文**

この会合は、ヴィヴィアン・ハイストが機械的な更新（MU）を行った数日後に開催された。機械的な更新には、妥当性の高い範囲をカバーする6つのシナリオを走らせる作業も含まれていた。当初は、MUの結果を検証して代替案を提案し、これらに対するMCMCのパフォーマンス評価を試みる計画であった。しかし、会合前にMUならびに代替の仮定に対する感度を検証する時間がなかったこと、さらには、各MCMCのランに36時間要したため、プロセスは圧縮される結果となった。